

努力賞 (子どもの部)

「なかなかおりをする方ほう」

荒川区立第三日暮里小学校二年

清水 湊

やなぎ田先生、こんにちは。

やなぎ田先生は友だちとけんかをしたことはありますか。

ぼくはときどき、友だちや、おとうととけんかをしてしまうことがあります。だから、ぼくは、この本をみて、「けんかの気もち」ってどんな気もちだろう。と思ってこの本を読むことにしました。

この本は、一ばんなかよしのたいくんとこうたくんが、けんかをしたけれど、ぎょうぎをたべてな

かなかおりをしたお話です。すねてかえってしまつたたいくんのいえに、ともだちがきてくれて、「ぎょうぎをいっしょにたべよう。」とさそってくれました。それをたべたたいくんは、けんかでまけてくやしい気もちからやさしい気もちにかわりました。

ぼくが一ばん心にのこつたことは、ぎょうぎをたべて、けんかの気もちがなくなったことです。ぼくはこういういたなかなかおり方があるなんて、おもいつきませんでした。

ぼくは、よく弟とけんかをしてしまいます。けんかの気もちがなくならなくて、すぐにあやまれないときがあります。だからこの本のやり方ですきなたべものをいっしょにたべて、なかなかおりをしてみたいと思いました。

ためしに、おとうとに、すきなたべものをきいてみると、「お肉と、ごはんをたべたい。」と、言っていました。ぼくだったらハンバーグをたべてなかなかおりしたいです。もし、おなががすいていなかったら、たべものいがいの方ほうもいいと思います。いっしょにすきなアニメを見たり、水あそびをしたら、たのしい気持ちになってなかなかおりができるのかな、と思いました。

やなぎ田先生は、こういうあやまり方で、あやまってみたいですか。

この本を読んで、色いろなあやまり方をおもいつくことができました。けんかはいけないことだとわかっていますが、もしこれからけんかをしてしまったときは、今回おもいついた方ほうで、けんかの気もちをなくしていききたいです。